

〈作 品〉

Waiting for...

前 田 夏 樹

Natsuki MAEDA : Waiting for...

本作品の制作において特に意識したことは「時の流れ」を表現することである。このために人物の大小関係や、色による感情表現、シルエット、背景などに工夫を試みた。

キーワード：油彩画 時の流れ 感情 色 シルエット

油彩画というとどちらかといえばクラシカルなイメージを持つ人が少なくないが、色彩や構図、マチエール、素材等の工夫で斬新な印象を与えることもできる。これは油彩のもつクラシカルなイメージを否定するものではない。クラシカルなものから斬新なものまで、さまざまな表現の可能性をもつことが油彩画の魅力といえよう。そして、油彩画のもつ多様な可能性を模索することが、作家自身の制作における課題であり、このことが作品のオリジナリティにつながるものと考えられる。

本作品は、2006年1月に行われた鳥取県美術家協会展に出品したものである。

本作品では「waiting for...」というタイトルで、恋人を待つ女性の刻々と変化する感情の表現を試みている。本作品の制作にあたり、特に意識したことは、「時の流れ」である。作品中には「時の流れ」を意識させるためにいくつかの工夫を試みている。

まず人物については、画面上部から下部に向けて徐々に大きくなるようにすることで、視覚的な「流れ」を意識した。そして女性のポーズや表情の変化は、出会う時間が近づいていることを意識させるものとした。

また人物の色についても、画面上部から下部に向けて寒色から暖色に変化させることで、色のもつイメージから人物の感情が徐々に高まっていることを表現し、出会う時間が近づいていることを意識させ

るように試みた。

次に人物の背後にあるシルエットである。これは一方で作品における視覚的効果を向上する役割を持つ。具象的な表現である人物と、抽象的な表現のシルエットの対比が画面にメリハリをつけ、またシルエットの色彩は、人物の色彩と補色の関係にあり、それぞれを引き立てるものとなっている。

そしてこのシルエットは、他方で「時の流れ」を意識させる役割もある。画面上部では人物とシルエットの間に大きく距離があるが、下部にいくにつれ徐々にその距離は縮まり最下部の人物にはシルエットがない。これは距離的な近づきを時間的な近づきを連想させるという考えによる。

最後に背景である。画面上部から下部に向けて線の太さと色彩をグラデーションさせることで「流れ」を連想させるものである。当初背景には階段を描く予定だったが、表現の具体化によるイメージの狭まりを避けるため、階段のイメージを残した現在の表現とした。

以上のような点から、本作品では「時の流れ」を意識させる工夫を試みてきた。これらの工夫が、作品を鑑賞する側にとってどれほどの効果を得たのか定かではないが、今後も作品制作において、さまざまな工夫を試みながら、油彩画の可能性を模索してゆきたい。



Waiting for... 910×1167cm
前田夏樹